

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2015 年 11 月 4 日提出

氏名	横山 望
所属	獣医内科学教室
学年	4
出張先	Asia Meeting of Animal Medicine Specialties 2015 場所：ルネッサンスホテル、クアラルンプール、マレーシア
出張期間	2015/10/31 ~ 11/ 3
目的	Asia Meeting of Animal Medicine Specialties 2015 にて口頭発表のため

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

Asia Meeting of Animal Medicine Specialties (AMAMS) は、アジアにおける獣医臨床専門医制度の立ち上げを目的に設立された学会である。2 年毎にミーティングが開催されており、第 1 回目の中国からはじまり、台湾、タイ、インドネシアまで計 4 回開催されている。第 5 回目の本年はマレーシアにて開催され、アジア各国から内科、眼科、皮膚、腫瘍など様々な分野の専門医が参加した。今回、私は AMAMS 2015 にて口頭発表を行ったので、その概要を報告する。

AMAMS2015 は、クアラルンプールの中心部にあるルネッサンスホテルで開催された (図 1)。会場には、内科、外科、皮膚、眼科の各セッション 2 つずつ部屋が用意され、企業展示も認められた (図 2, 3)。また韓国、マレーシア、日本といった国々から多数のポスター発表があり、内容も整形外科、眼科、再生医療、麻酔、循環器など多岐にわたる (図 4)。会場に至る通路ではディスカッションできるスペースが存在し、多数の研究者がコーヒブレイクの最中に活発な議論を繰り広げていた (図 5)。学会の規模はまだまだ小さいものであったが、今後の発展が期待される内容であった。

本年度の AMAMS2015 のテーマは、“Beyond general practice”。そのテーマに合わせ、口頭発表の内容も臨床の基礎的な内容というよりは発展的なものが多かった。韓国、マレーシア、タイ、インドネシア、インドなど様々な国々から口頭発表が行われており、その発表内容から参加国の小動物臨床の現状を窺い知ることができた。口頭発表している国々に共通していた点は、発表におけるプレゼンテーションスキルの高さである。特に英語でのディスカッションに優れており、自分の拙い英語力を痛感させられた。それと同時に、このような学会で口頭発表することは、自らの研究成果を専門医とディスカッションする絶好の機会であり、国際レベルで活躍する研究者を養成するというリーディングプログラムの主旨に合致するものと思われた。

私は、題名「Localization of toll-like receptor 2 and 4 in the colorectal mucosa of miniature dachshunds with inflammatory colorectal polyps」という口頭発表を行った（図 6）。発表内容は、私が主に研究を行っているミニチュア・ダックスフンドの炎症性結直腸ポリープ（Inflammatory colorectal polyps, ICRP）の病態解析である。本発表は、自然免疫系の分子である toll-like receptor（TLR）の ICRP 組織中の発現を *in situ* hybridization により調べた報告である。その結果、ポリープ周囲の組織学的に正常な結直腸粘膜の上皮細胞にて、TLR4 の発現上昇が認められた。以上のことから、結直腸粘膜における TLR4 の過剰なリガンド刺激が大量の炎症性サイトカイン合成の誘導を促し、ポリープが形成されるという仮説が導かれた。研究の課題は、ICRP の結腸上皮細胞における TLR4 の調節因子と炎症性サイトカイン合成能の変化を評価することであり、発表の最後に今後の研究の方向性として提示した。私の発表に対し、ありがたいことに参加者から多くの御指摘、コメントをいただくことができた。主なものとして、ICRP という疾病自体に興味を抱く方、腸内細菌叢の解析を薦める方や TLR4 の発現量上昇の解釈について質問、御意見をいただき、研究内容を再考するよい機会となった。

本学会に参加して最も強く感じられたことは、国際プレゼンテーションにおける発信力の重要性である。本学会に参加した発表者の中には、研究内容は興味を引く内容であるものの、英語スキルが不足しているために印象に残らなかったり、またその逆の場合も見受けられた。自分の研究をできるだけ数多くの世界の研究者に知ってもらうためには、わかりやすい形で自分の研究を提示する必要がある、特に英語スキルは必須である。本学会の口頭発表を通して、私自身は、特に英語スキルが圧倒的に不足しているように感じられた。本学会の反省を生かし、優れた研究内容と理解しやすいプレゼンテーションが両立した発表を目指して努力していきたい。

最後にこのような発表機会を与えてくださった滝口先生、渡航に関して手配していただいたリーディング事務局の皆様に深く感謝致します。



図 1. 会場概観

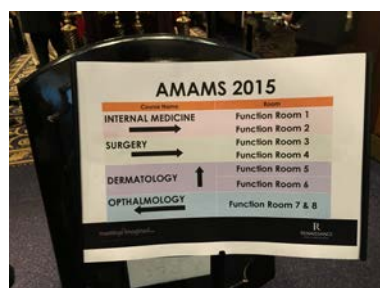


図 2. 会場図

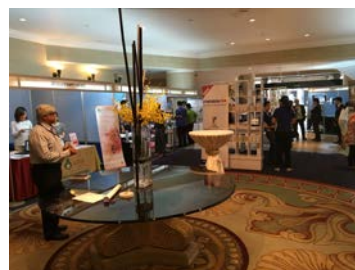


図 3. 会場風景

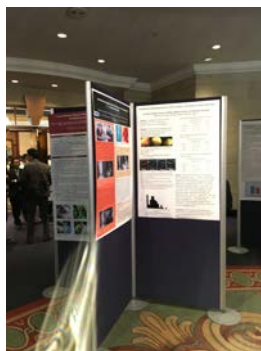


図 4. ポスター発表



図 5. 討論風景

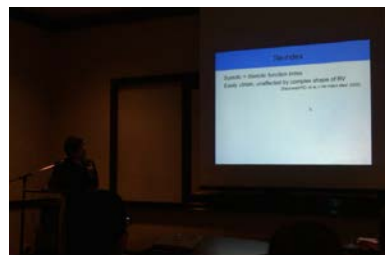


図 6. 発表風景

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 獣医内科学教室・教授 滝口 満喜 印
---------	-----------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp